



バングラデシュ派遣 山内章子ワーカー活動報告会

## ～ 違いをこえて平和を生きる物語 ～



日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)は、1960年に活動をはじめた日本で最初のNGOのひとつです。日本がアジアの人々に対して犯した戦争への深い反省に立ち、和解と平和の実現をねがって設立されました。すべての人々の健康といのちがまもられる世界をめざして、キリストの愛の精神にもとづいて、アジア・アフリカの国々で保健医療協力を行っています。

バングラデシュへは1970年代から様々な専門性をもつ医療従事者を派遣し、公的な支援をうけることができない人々、弱い立場におかれた人々に寄りそってきました。理学療法士の山内章子(やまうちあやこ)ワーカーは、2007年7月からバングラデシュ北部のマイメンシン県で、現地の理学療法技術者を育て、障がいのある女性たちの尊厳と生きる力の回復を目指して活動してきました。

### ■ やまうちあやこ 山内章子ワーカー プロフィール ■

東京都中野区出身。理学療法士として武蔵野赤十字病院で約15年間の勤務の後、教員として専門学校東京医療学院で後進の指導を担う。2007年7月からJOCSワーカーとして3期11年にわたり、バングラデシュ・マイメンシン県の障がい者コミュニティセンター(PCC)を拠点とし、近隣の障がい者施設も対象にしながら理学療法の改善に取り組んできた。またこの間、ケニアを3度にわたり短期訪問し、協働する現地の障がい児療育支援団体の理学療法の改善に向け、現地スタッフを訓練した。2018年12月に帰国。



**CPD / 障がい者センター  
(Centre for People of Disabilities)**

ディナジプール県のハンセン病施設の中にあり、障がい児入所施設や外来治療、訪問リハビリが行われている。外来担当、訪問リハビリ担当の2名のスタッフを育成した。

**Bhuthara Mission /  
ブタハラ・ミッション**

PIME (修道会) のミッション。育成したスタッフが訪問による理学療法を開始していたが、離職してしまったため、支援の継続が困難となった。

**山内ワーカー  
活動地**



**PCC / 障がい者コミュニティセンター  
(Protibondhi Community Centre)**

障がいのある人々のためのデイケア、外来・訪問理学療法、女性クラブなどの自助グループといった多様なプログラムがある。理学療法スタッフ3名の能力向上とともに、ボランティアたちに理学療法研修を実施した。

**L'Arche Mymensingh /  
ラルシュ・マイメンシン**

身体・知的障がいのある人々とスタッフがともに生活するコミュニティで、岩本直美ワーカーがリーダーを務める。スタッフが障がいのあるメンバーに理学療法を毎日続けられるように、山内ワーカーが後方支援した。

**KPKS / カリバリ障がい者組合  
(Kalibari Protibondhi Kolan Shomiti)**

マイメンシン県内でも保守性が高く、障がいのある人々への差別が強い医療過疎地にある障がい者支援団体。理学療法治療のために訪問した。



Bangladesh で「バン」と呼ばれている乗り物。運転手さんが自転車をこいでくれます。

**Kailakuri Clinic / カイラクリ・クリニック**

ニュージーランド人の故ペカー医師が地元の人々を医療スタッフとして訓練し、設立した貧しい農村地域の診療所。理学療法専従となった女性スタッフを育成し、医療スタッフを対象とする研修を実施した。



Bangladesh のバス。上に人や荷物が載ることも。

イラスト：山内章子

**Bangladesh の仲間たち**

人口1億6,175万人を抱える Bangladesh。世界でもっとも人口密度が高いといわれ、多民族、多文化、多宗教(イスラム教、ヒンドウ教、キリスト教他)が共存します。首都では急速に経済が発展する一方で、開発から取り残されていく地域や人々も少なくありません。とりわけ障がいのある人々、なかでも女性たちは大変な困難の中を歩んでいます。

PCC 女性クラブは、弱い立場におかれた障がいのある女性を探し出し、彼女たちが生きる価値を再発見できるようにと、障がいのある女性当事者たちによって2000年に設立されました。現在は103名のメンバーが励ましあいながら、心身のケアと収入を得るための活動を行っています。代表のタフミナさんは、言います。「私自身も含めて、女性の立場はこの国で十分に認められておらず、障がいを持つ女性は言葉にするのもはばかられるような恥辱や痛みを受けています。だから私たちは毎月集まって、痛みを分かち合い、支えあうのです。また障がいがあってもできる仕事を探し、収入を得て自立できるよう活動しています。価値がないと思っていた自分たち自身に価値を見出し、周りの認識が変わることで新しい命を歩むことでできるのです。」

山内ワーカーは、女性たちの思いに寄り添い、理学療法担当のレハナさんを指導したり、タフミナさんとともに女性たちの家庭を訪問をしてきました。山内ワーカーから傷ついた女性たちとのかかわり方を学んできたレハナさんは、「私の目標は第二の章子になること」と目を輝かせます。



理学療法中のレハナさん(中央)と山内ワーカー

(2017年度 年次報告書より)